

筑波大学附属中学校

学校案内

Junior High School at Otsuka, University of Tsukuba

GUIDEBOOK

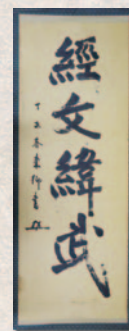


本当の学びがここにある



History

- 1872(M5年) 神田昌平夔跡(現文京区湯島1丁目5番地)に師範学校を創設する。
- 1873(M6年) 師範学校に附属小学校を設置。東京師範学校と改称する。
- 1886(M19年) 高等師範学校と改称する。「長途遠足」を実施。後に「修学旅行」と言い換えられ、全国に普及。
- 1888(M21年) 高等師範学校に尋常中学科を新たに設置(本校の創立)し、教科を尋常小学科、高等小学科、尋常中学科とし、附属学校と改称。男子生徒の帽子と徽章を定める。
- 1890(M23年) 校舎を神田一ツ橋通町に移転する。校友会を創立する。
- 1893(M26年) 尋常中学科第1回卒業生(8名)を出す。
- 1895(M28年) 尋常中学科初の修学旅行を鎌倉で実施。
- 1896(M29年) 校舎をお茶の水の師範学校内に移転する。附属小学校の名称を改め、附属尋常中学校並びに附属小学校と改称する。
- 1897(M30年) 校友会を桐陰会と改称する。
- 1899(M32年) 附属尋常中学校を附属中学校と改称。
- 1902(M35年) 東京高等師範学校附属中学校と改称。
- 1904(M37年) 富浦に水泳場を開く。
- 1910(M43年) 小石川大塚窪町の新築校舎に移転する。
- 1928(S3年) 校旗を制定する。
- 1940(S15年) 小石川区大塚町56(現在地)の新校舎に移転する。





中学生は心身ともに大きく変化する年頃です。その3年間を過ごす附属中学校には、成長期の渦の中にいる生徒達を、鍛え、育てる場が、あちこちに用意されています。授業の中では、「考え方」や「すじみち」を掘り下げていく場面、多様な意見にふれる機会や、自分の考えをふり返る時間、互いに聞き合う中で1つのものを創りあげていく体験など、将来につながる活動が数多くあります。授業以外の活躍の場も多彩です。その大半は自治の理念で進められ、生徒には多くの自由と権限と責任の伴う環境が与えられ、仲間と協力し、役割をやり遂げながら育っています。



- 1947(S22年) 新制中学が発足する。1年より男女共学が始まる。
- 1949(S24年) 東京教育大学東京高等師範学校附属中学校と改称する。
- 1952(S27年) 東京教育大学附属中学校と改称する。
- 1978(S53年) 筑波大学に移管され、筑波大学附属中学校と改称する。
- 1988(S63年) 創立100周年記念式典を行う。『創立百年史』を発行。
- 1996(H8年) 中学・高校共用の体育館が完成する。
- 1998(H10年) 創立110周年記念祝賀会を行う。『筑波大学附属中学校五十年誌(創立110周年記念)』を刊行。
- 2004(H16年) 国立大学法人筑波大学に移管。エレベータ設置・校内バリアフリー化。
- 2007(H19年) 教室に空調設備設置。
- 2008(H20年) 創立120周年記念式典を行う。『故きを温ねて一附属120年の足跡一』を刊行。
- 2010(H22年) 中学・高校共用のプール(全9コース)が完成する。
- 2014(H26年) 桐蔭会館完成。
- 2018(H30年) 創立130周年記念式典を行う。『筑波大学附属中学校七十年誌(創立130周年記念)』を刊行。
- 2020(R2年) すべての教室にプロジェクターを設置。映像をそのまま投影できる黒板に変更。
- 2021(R3年) 教室にWi-Fiアクセスポイントを設置。生徒1人に1台のタブレット端末を配備。コンピューター室をリニューアル。



本校の使命

本校は、筑波大学附属の中学校で、小学校における教育の基礎の上に、心身の発達に応じて中等普通教育を行うとともに、筑波大学における生徒の教育に関する研究に協力し、かつ筑波大学の計画に従い、学生の教育実習の実施にあたる使命をもっています。

教育方針 校訓

強く、正しく、朗らかに

この言葉は、高等師範学校の中興の祖と言われる馬上孝太郎校長（在職 1931～41年）が唱道され、本校の教育の原点として受け継がれてきた。



揮毫：鎌田 正先生

本校の正面玄関の脇に建つ「校訓碑」の文字は鎌田正先生の揮毫によるものです。鎌田先生は昭和13年から19年まで本校に在職され、漢文の授業を担当されました。後には、本校の校長もお務めになりました。鎌田先生は恩師である諸橋轍次先生を引き継いで「大漢和辞典」の改訂に取り組んだことで有名です。また、敬宮愛子親王殿下のお名前を決めるときの「名付け親」の一人となったことも広く知られています。

教育目標

調和的な心身の発達と確かな知性の育成、ならびに豊かな個性の伸長を図るとともに、民主的社会の一員として人生を主体的に開拓し、すすんでは、人類社会の進展に寄与することができる人間を育成する。

育てたい資質

- 1、自主自律の精神
- 2、強い意志とたくましい実践力
- 3、積極的な創意と探究心
- 4、広い視野に立つ正しい判断力
- 5、明朗率直で誠実な態度
- 6、集団生活における協力と責任
- 7、人間愛にもとづく思いやりの心

本校の特色

広く緑の多い環境の中で、筑波大学と連携しながら、
3つの教育拠点構想（先導的教育拠点、教師教育拠点、国際教育拠点）に基づいて、
教育活動を行っています。

すべての教科領域、 活動領域を重視した教育

本校では教育課程を教科領域と活動領域に分けています。教科領域は、人類が創造し、継承、発展させてきた文化を系統的に学習する教科学習と、文化を活動的・総合的・実践的に学習する総合的学習から構成されています。活動領域は、活動や実践を通して人格の形成をめざす領域で、HR活動と実践的活動から構成されています。



筑波大学や附属11校間の 密な連携教育

筑波大学の附属学校は11校あります。普通附属学校6校(小中高)と、特別支援学校5校(視覚、聴覚、肢体不自由、知的障害、知的障害を併せ有する自閉症)とがあり、双方の連携を深め、教育活動が充実することを目指しています。毎年、幼児児童生徒の交流会及び希望者による宿泊を伴う共同体験学習(三浦海浜生活)や、教員の相互交流の推進等に取り組み、大きな成果をあげています。



豊富な交流の機会を通じた国際教育

海外からの見学者との交流、ネイティブの先生による英語での指導、海外研修に行った先生による授業等、異なる感性や価値観にふれる機会が多くあります。春休みのアメリカ短期留学では、現地校での学びとホームステイを通して、生徒はたくさんの刺激を受けます。また、春休みを利用して様々な国からの留学生と校内で文化交流を行うプログラムもを行っています。



本校の学び

一日の生活の始まりは、全校週番が集まり、何を伝えるか、どのような伝え方をしたらよいか考えるところから始まります。

自分達で考え、行動する「自治」を大切にしています。

すべての教科領域、活動領域を大切にしています。教科の学習はもちろん、学級や学年の活動、生徒会活動、部・研究会活動などの自治活動も重視しています。これらの様々な活動を通して、基礎・基本を鍛え、一人ひとりの「個性」を育みます。

男子と女子の人数はほぼ同数の共学です。

中学から附属の仲間入りをする生徒と、附属小学校出身の生徒が一緒になって、互いによいところを出し合い、楽しく学び、闊達に活動しています。

附属中学校は、生徒が学ぶ場であるとともに、教師も頻繁に研修・研究会を行っています。内地留学の教員の受け入れや、諸外国からの視察も多く、教師教育の拠点校になっています。



嘉納 治五郎 先生



嘉納治五郎先生は、講道館柔道の創設やアジア初の国際オリンピック委員会(IOC)委員として有名ですが、筑波大学の前身である高等師範学校・東京高等師範学校の校長を3期23年半にわたって務めたほか、本校の前身である東京高等師範学校附

属中学校の校長も3期24年半務めた方でもあります。附属中学校に、現在の富浦海浜生活につながる課外活動を導入したり中国などからの留学生を受け入れたりするなど、当時においては画期的な様々な教育改革を行い、それらは日本の学校教育の充実と国際的な視野を持ったリーダーの育成につながりました。嘉納先生の精神は、今でも本校の教育のあり方の指針となっています。

学校長 麻見 直美



都心に有りながら、学び、体験するに十分な広さの、恵まれ充実した環境が本校にはあります。科学技術に支えられた効率の良い便利な学びを最大限駆使しながら、実体験を大切にしたい学びを、意欲にあふれ吸収力の高い活力ある生徒と、人間性豊かで経験豊富で教育に熱い思いを持つ教員とが、協調し合って日々作り上げています。これは、常に新しい教育にチャレンジし続けつつ、長い歴史の中で育み確立した良き伝統を大切にしているからこそ成せる技と確信します。益々加速する変化に富む社会を生きる(活きる)力を育てるために、忙しく時間が流れる現代の日常において、心のゆとりと時間のゆとりを共に大切にして、多くのリアルを経験する学びを実現します。沢山の話を耳を傾け、沢山の考え、沢山の話し、沢山の悩み、沢山の挑戦し、沢山の失敗し、沢山の支え合い、しっかり心を休め、沢山の成功し、多くの人と関わり合い、自分と仲間の土台づくりと種まきとなる中学校生活を送れるよう、心を込めて支援いたします。

自治活動

自治活動は、本校を語るうえで欠かせないものです。先生たちの力に頼るだけではなく、自分たちの目で見て、頭で考え、体を動かし、自分たちの力で自分たちを「治める」。この自治活動のありがたさや意味を、本校の生徒は3年間考え続けます。仲間とともに自治活動について考え続けた日々に、自信と誇りを持って生徒は巣立っていきます。



学校・学年行事

本校にはたくさんの行事があります。学校行事では、半年以上をかけて作り上げる「運動会」と「学芸発表会」がその代表です。また、コース別の「修学旅行」や「校外学習」は、教科学習を深化させる重要な行事です。学年行事では、「富浦海浜生活」(1年)や「黒姫高原生活」(2年)などのほか、校外活動もあります。どの行事でも生徒が主体的に活動し、企画・運営力、主体性、合意形成などのグローバル社会に生きるための素養を磨くことができます。



部・研究会活動

部・研究会活動は、生徒一人ひとりの自主性と主体性から成り立っています。自分の興味関心のある運動部や研究会に参加し、仲間と高め合う中学校生活の中で充実した時間になっています。たくさんの部・研究会活動があるので、それらの活動を通して輝いている自分に会えるはずです。仲間と共に過ごす3年間はかけがえのない充実した日々になることでしょう。



修学旅行

本校の修学旅行は前身の東京師範学校が1886年に「長途遠足」として実施したことから始まっており、日本の修学旅行の発祥と言われています。現在は、文学、社会、自然、勤労体験などの5つのコースから1つを選択し、現地で生活する人々や文化財と出会い、宿泊を伴う体験的・総合的な活動を行っています。活動を深めるための事前学習や現地での学びを振り返り、まとめる事後学習も行います。



アメリカ短期留学

春休みにアメリカ短期留学を実施しています。本校生徒のためだけに用意されたプログラムであり、希望者36名がペンシルベニア州にある現地の学校、ホストファミリーにお世話になり、英語漬けの生活を送ります。この約10日間での生徒の成長は目を見張るものがあります。



生徒の声

この学校の学びの特徴として、生徒による主体的な学びであることがあげられます。例えば、授業では、問いに対して生徒同士でディスカッションを行ったり、自分自身で関心を持ったことについて探究を行ったりする場面が多くあります。一方的に情報を受け取るだけではないからこそ気づくことのできる、新たな学びがたくさんあります。また、クラスメイトや学年の仲間、時には全校生徒の前に立つ機会が充実していて、多くの生徒が自分の思いや考えを堂々

と伝えられるようになっていくことも大きな特徴です。授業中にクラスメイトの前で発表する、学年行事を通して得られた学びを学年全員の前で共有する、生徒会活動や部・研究会活動で学年を超えて活動を主体的に進める、といった場面で卒業までの間に数えきれないほどあります。このような環境の下、3年間で過ごした時には、自分たち自身でも実感できるほどのたくさんの学びと大きな成長を得られるでしょう。
(3年・桐陰会委員長)

教科教育

自ら学ぶ意欲を大切にするそれぞれの教科指導では、自分で考えグループで意見交換し全体で共有をおこないます。そして、新たに自分の考えを深めていきます。

国語

国語科では、話す・聞く・書く、読む学習を通して言葉の力を総合的に高めるとともに、思考力や想像力を養い、社会生活に必要なコミュニケーション力を伸ばすことを目指しています。授業では、互いの考えを知り視野を広げるために、グループで話し合ったり互いの文章を読み合った

りする活動を多く設け、学び合いに力を入れています。また、3年間を通して小倉百人一首の暗唱、漢字・語彙力の向上、作文コンクールへの応募にも取り組んでいます。



社会

社会科の学習は、問題の発見と追究をめざしていることが特色です。地理的、歴史的な見方・考え方、現代社会の見方・考え方を身に付け、現在進行形の諸課題にも目を向けて、何が問題なのかを理解し、どう解決できるか、自分はどういう行動をとるべきかを考え続け、実社会に出ても通用

する力として鍛えることができます。中1の社会科の行事として、さいたま市の見沼田んぼや岩槻を訪れ、田植え体験や城下町のフィールドワークを行っています。

令和3、4年度には金融教育研究校として、令和5、6年度は主権者教育実践教育校としての取り組みも行っています。



数学

数学科の授業は教科書を基本として展開しますが、教科書通りに進行するわけではありません。生徒どうして意見を交換し合いながら、概念を確認したり、解決のための方法を話し合ったりします。単に問題を解決するだけでなく、解決した問題をもとにして、新しい問題を発見したり、発展

的に考察したりします。お互いに議論し学び合う過程を通じて、数学の内容を深く掘り下げながら学習が進むという特徴があります。これらをふまえて、数学で学んだ事柄を日常生活や社会に関わる諸問題の解決に活かせるようにしています。



理科

本校の理科では、実験・観察を数多く実施し、実験観察の基本的な技能をしっかり身に付けます。与えられた方法で実験観察を行うだけでなく、自分たちで課題を発見したり、仮説を立ててそれを検証する実験方法を考えたり、お互いの結果や考察を共有して結論を導いたりする「探究的な活

動」や「協働的な学習」を随所に取り入れています。学習内容は教科書を基本としていますが、現象を自分の言葉やモデルで説明したり、学んだことを日常生活につなげたりと、学びを深めたり広げたりする授業を行っています。



音楽

音楽科では、単なる演奏技術の向上や他人との比較、勝敗を競う手段とすることなく、音楽そのものと向かい合う授業をおこなっています。「心の耳を育てあおう」「判断力をつけて自治活動の質を良くしよう」「壁を乗り越えよう」「安心して失敗できる、悪口の聞こえない音楽室を創ろう」の

4つの学びの柱に基づいて、多くのオリジナル単元を自分で深く考え、感じ、話し合いながら表現する活動をつうじて、「自分のなりたい国際人」の自己実現をめざしています。



美術

本校の美術は、「なんだろう」という問いから始まります。身の回りの生活に目を向け、自分らしいテーマを見つけて表現に取り組みます。「表現」と「鑑賞」を行き来しながら、感性と思考を深めていきます。ICTを活用して制作の過程を記録・共有し、自分の成長を実感しながら、友達と学

び合う環境も大切にしています。自分の内面と向き合い、生活に工夫を加える力を育てることで、「自分らしく生きる力」へとつなげていきます。



保健体育

保健体育科では、生涯にわたって心と身体の健康を維持し、運動やスポーツに豊かにかかわり続ける自力を養うため、運動・スポーツの実践を通して、生徒達が互いに競争・協働し考えを広げ深めながら、知識・技能を身につけ高めていくことを重視しています。そのため、体育と保健の全

ての授業において、自己や仲間の課題に気づいたり、より良い解決に向けて思考・判断し、それらを他者と伝え合ったりする活動を大切にしています。



技術

技術分野では、技術の見方・考え方を働かせ、生活や社会で利用されている材料、加工、生物育成、エネルギー変換及び情報の技術についての理解を図るとともに、それらに係る技能を身につけ、理解を深める学習ができるように指導しています。

特に情報の技術では、入学した前期より

半年間、SNSや情報もたらす影響や、激しく変化していく社会について考え、3年生では、よりよい生活や持続可能な社会を構築し、問題解決型の学習を行い、様々な課題について生涯に渡り考え続ける資質・能力を育成することを目指しています。



家庭

家庭科では、よりよい生活の実現に向け、生活の自立に必要な知識や技術を身に付けることを目標としています。「家族・家庭生活」、「衣食住の生活」、「消費生活・環境」それぞれの分野において、法改正をはじめとする社会的な動きに目を向け、生徒が興味関心を持ちやすいように、実際流

通している商品や自分の持ち物に付いているさまざまな表示などを教材として扱うことで、生徒が、実践的な態度を養いながらグローバル化、少子高齢社会化、持続可能な社会の構築等の諸課題を適切に解決できる能力を育成できるよう指導内容の充実を図っています。



英語

本校では、100年以上前から英語で授業を実施し、「聞くこと」「話すこと」を中心とした指導を行ってきました。長い歴史の中で、時代に左右されることなく、どんな人とも良好なコミュニケーションをとることができる力を育成してきました。毎日の授業では、教科書を大切に学習

を通して基礎基本となる力を伸ばすとともに、英語での対話や即興性を重視して「生きた英語」を身に付けるような学習を展開しています。実際に多くの卒業生から「附属中で習った英語が社会に出てから役に立っています」という声がたくさんあります。



年間行事

附属中学校には富浦生活や黒姫生活等多くの行事があり、その多くが生徒の手によって創り上げられています。

4月

- ・入学式
- ・始業式
- ・総合健康診断

5月

- ・修学旅行（3年）
- ・校外活動（1、2年）
- ・教育実習期間
- ・校外学習（1年：社会科）

6月

- ・前期中間考査

7月

- ・黒姫高原生活（2年）
- ・富浦海浜生活（1年）
- ・夏休み

8月

- ・夏休み

9月

- ・学芸発表会
- ・前期期末考査

10月

- ・前期終業式
- ・秋休み
- ・後期始業式
- ・運動会

11月

- ・委員長陣（生徒会役員）選挙
- ・研究協議会
- ・後期中間考査

12月

- ・生徒会総括
- ・冬休み

1月

- ・冬休み
- ・委員長陣所信表明
- ・生徒会団体基本方針

2月

- ・入学試験
- ・学年末考査

3月

- ・ファイナルコース（3年）
- ・卒業式
- ・修業式
- ・春休み



入学式



校外学習



校外活動



修学旅行



運動会



黒姫高原生活



委員長陣（生徒会役員）選挙



富浦海浜生活



学芸発表会



卒業式

生徒の声

この学校では、私たち生徒が主体となって行事を進めていくため、学級委員や準備小委員会といった行事の実行委員だけではなく、行事に関わる一人一人が真剣に行事に向き合えば良いものは生まれません。そのような行事の企画・運営では、自分たちが何をしたいのか、そのためにはどのような準備が必要なのかといった内容について、行事の数

ヶ月も前から活発な議論が行われます。その過程では、自分のやりたいことをうまく形にできないなど、一から行事について考えていくことに、難しさを感じる場面も多くあります。しかし、それらの課題を友だちと協力して解決し、最終的に行事をやり終えた時の達成感は、他の何にも代えがたいものがあります。
(3年・桐陰会副委員長)















部・研究会活動

社会性を養い、尊敬と思いやりの相互理解に基づく豊かな人間関係を育みます。

部活動















部活動一覧

-  男子水泳部
-  女子水泳部
-  蹴球部
-  男子硬式庭球部
-  女子硬式庭球部
-  排球部
-  野球部
-  陸上競技部
-  男子籠球部
-  女子籠球部
-  ダンス部
-  剣道部
-  バドミントン部
-  卓球部

研究会



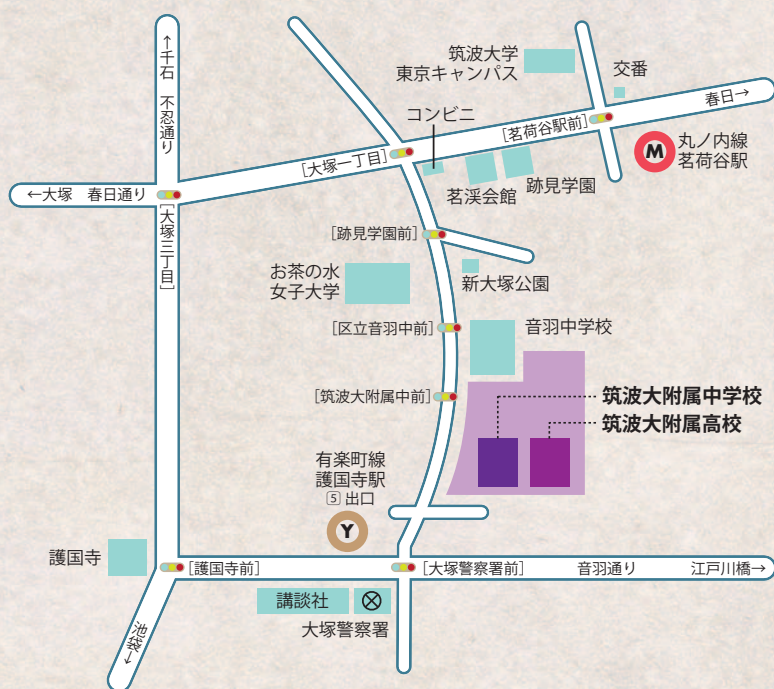
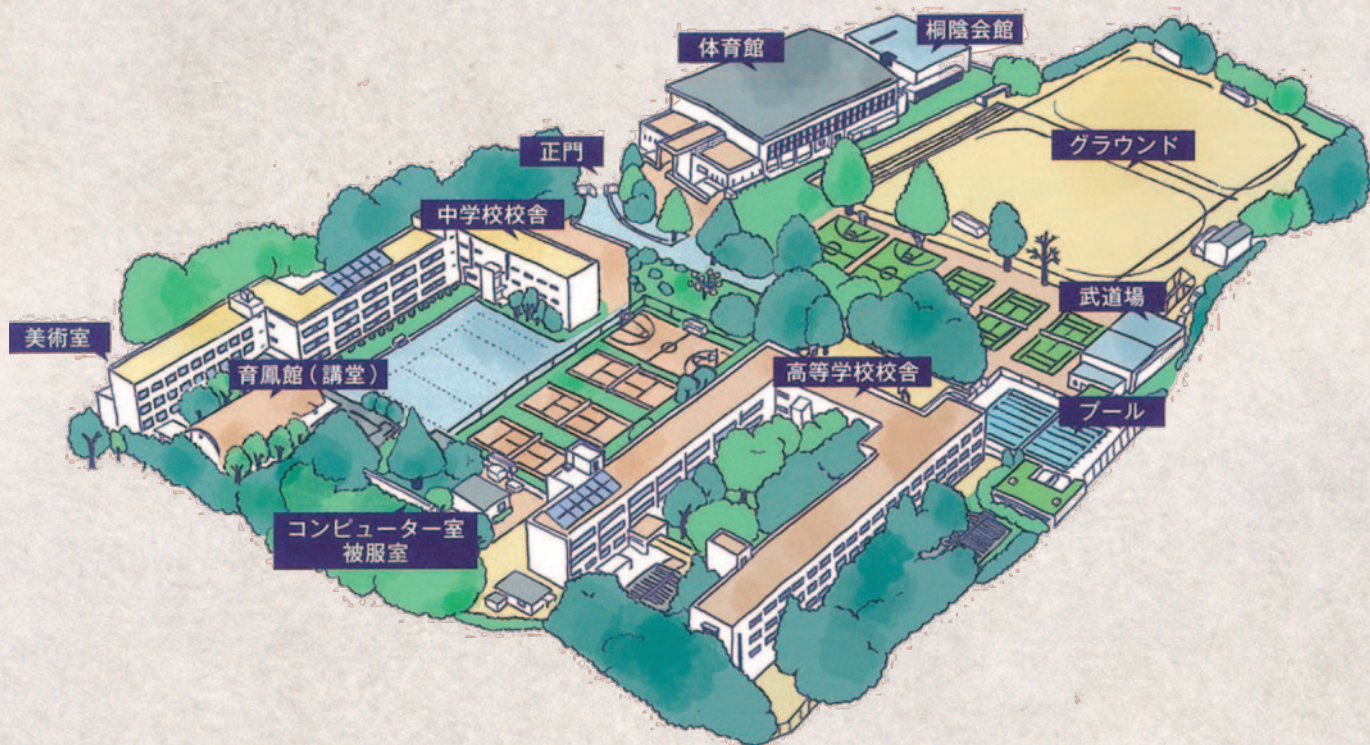
研究会一覧

-  音楽研究会
-  化学研究会
-  電子情報技術研究会
-  美術研究会
-  イラスト研究会
-  天文研究会
-  鉄道研究会
-  演劇研究会
-  アジアの子供の会
-  家庭科研究会
-  軽音楽研究会
-  競技かるた研究会
-  文芸同好会
-  囲碁将棋同好会

生徒の声

筑波大学附属中学校の部・研究会活動は、生徒たちの自主性で成り立っており、日々の学校生活の大きな1ピースとなっていることが最も大きな特徴であり魅力であると感じます。どの団体も主将・責任者は日々活動の質の向上を模索し、部員もそれに応えて部・研究会全体のことを考え、積極的に活動しています。運動部は、東京23区内では珍しい広い敷地を十二分に活かし、日々質の高い練習を行っている部が多く、都大会に出場している部もあるほどです。研究

会は、日々の活動の成果を学校行事の学芸発表会で発表しており、毎年それぞれの研究会が、見る人をとても楽しませてくれるハイレベルな展示、演示を行っています。生徒たちの多くは何かの部・研究会に所属し、活動に打ち込んでいるため、日々の学校生活にも好影響を与えていると感じます。また、部・研究会活動での挫折やそれを乗り越えたり、打ち込んで努力した経験も確実に日々の生活に生きています。
(3年・主将責任者会議代表生徒)



筑波大学附属中学校

〒112-0012 東京都文京区大塚1丁目9-1
 Tel : 03-3945-3231 Fax : 03-3945-3886
www.high-s.tsukuba.ac.jp/jhs/

